

夏の思い出を清流で

甲川溪流まつり

甲川うぐいす橋下手を会場に、甲川溪流まつり(中山まちづくり実行委員会)が8月2日(日)に行われました。このイベントは、日本百名谷の1つに数えられている溪流「甲川」の素晴らしい自然を知ってもらい、親しみをもってもらおうと毎年開かれています。

夏休み中ということもあって、参加者は町内外から約300人。自然いっぱいの中で、ヤマメのつかみ捕りや流しそうめんなどを大人も子どもも世代に関係なく満喫しました。捕まえたヤマメは塩をふって、その場で塩焼きに。水面をわたる爽やかな風



▶「ほら、つかまえた!」



▶「お母さん!ここにいますよ!」

戦後から70年、

抑留体験を冊子に

中山地区人権・同和教育推進協議会(金田吉人会長)が平和学習の教材にしてもらうと、遠藤昭夫さん(松河原)のシベリアでの壮絶な体験を冊子にまとめました。

遠藤さんは、13歳のときに満蒙開拓青少年義勇軍に志願し、満州へ。その後、ソ連軍の侵攻と終戦を受けて、シベリア抑留生活を余儀なくされました。

冊子のタイトルは『よう生きて帰ってきたですわ』。

劣悪な生活環境、凍土の中で、抑留生活の過酷な労働など、抑留生活について、遠藤さんの語り口調で書かれています。

完成した冊子は、町内の小学校、図書館などで手にとることが出来ます。遠藤さんは自分の抑留体験を初めて語り、「戦争は絶対にしてはならない。シベリアでの出来事は風化させてはならず、後世に伝えてほしい」と話されました。



▶冊子を手にする遠藤さん

大山周辺のトイレをボランティアが清掃

ボランティアによる観光施設のトイレの清掃が、9月4日(金)に大山周辺で行われました。

これは、「みんなで一緒におもてなし 中四国観光名所一斉清掃」という地域貢献の一環として、台所やトイレなどを扱うLIXIL中四国支社(広島市)が取り組んだもので、大山周辺だけでなく中四国地域の観光名所のトイレも一斉に清掃しました。

当日はあいにくの雨に見舞われましたが、ボランティアのみなさんがそろいのシャツやビブスを着て、大山山頂、大神山神社奥宮、枅水原など大山周辺の公共施設のトイレ8か所の清掃を行い、「おもてなし」に一役買いました。



▶清掃作業に汗を流す参加者